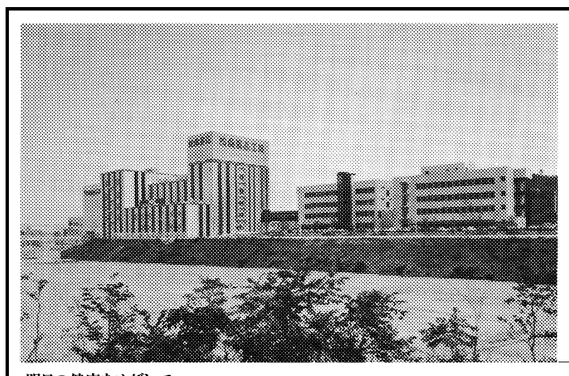


点滴などの輸液や人工腎臓用透析液でのトップメーカー

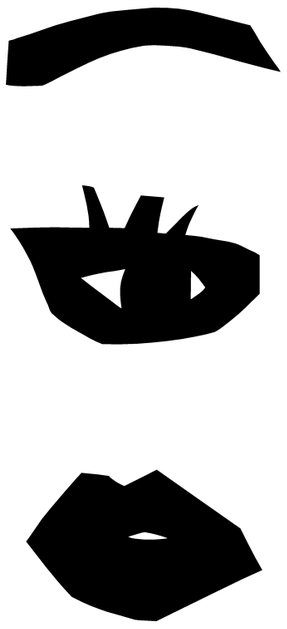
私たち扶桑薬品工業は創業以来半世紀余、治療上不可欠な医薬品のみを一筋につくり続けて参りました。その成果のひとつが、点滴としてなじみ深い輸液や、人工腎臓用透析液の分野でのトップクラスの実績となってあらわれています。

私たちは、これからもたゆむことなく、生命関連産業に携わる一員として、真摯にその本分を尽くしてまいります。

明日の健康をめざして
扶桑薬品工業株式会社
●本　　社／大阪市中央区道修町1丁目7番10号
●本社事務所／大阪市城東区森之宮2丁目3番11号　TEL(06)6969−1131(大代表)
http://www.fuso-pharm.co.jp

富山化学 FUJIFILM FUJIFILMグループ

技術と心意気。
それを創薬に生かします。



人間にとって医薬品とは、どうあるべきか。この根源的な問題に対し、わたしたちは常に「技術」で応えてきました。そして、今、最も力を注いでいるのが、抗菌剤や抗真菌剤さらには抗ウイルス剤などの抗感染症領域をはじめ、アルツハイマー型認知症に有効な治療薬を中心とする中枢・循環器領域やリウマチ性疾患を解決する抗炎症領域です。現在はもとより、将来は、さらに世の中で必要とされていく分野であり、新薬開発力や製造技術という、長年培ってきた富山化学のノウハウが期待されています。今、世界がわたしたちに注目しています。(いのちを「カガク」する。富山化学)

富山化学工業株式会社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-5 http://www.toyama-chemical.co.jp

循環器代謝

次期主力薬 並ぶ

痛風・高尿酸血症薬も

循環器代謝領域には各社の次期主力薬が並ぶ。第一三共は抗凝固剤「エドキサバン」を日米欧で承認申請した。心房細動（AF）患者と静脈血栓塞栓症（VTE）の治療や血栓予防への適応取得を目指す。日本の抗凝固剤市場ではベーリンガーインゲルハイムの「プラザキサ」とバイエル薬品（大阪市北区）の「イグザレルト」が火花を散らす。ブリストル・マイヤーズとファイザーの「エリキュース」も長期処方解禁を控える。競争が激化する中、エドキサバンは臨床試験で2万1100人を2・8年にわたって追跡した長期安全性で差別化する。

エーザイは肥満症薬「BELVIQ」を次期主力薬に据える。20年に1000億円以上の売り上げを目指している。米国では医薬情報担当者（MR）を400人に倍増させた。導入元の米アリーナから欧州や日本、中国などの全主要市場での独占的商業化権を取得した。15年度までに東南アジアやロシア、欧州でも申請予定だ。BELVIQは脳内のセロトニン受容体を刺激して、食欲を抑える。この原理を応用し、糖尿病や禁煙への適応拡大も狙う。体重管理のグローバルスタンダードを目指す。

ゼリア新薬工業とアステラス製薬はアコファイドを共同販促する

ゼリア新薬工業が創製した世界初の機能性ディスペプシア治療薬「アコファイド」も注目だ。アステラス製薬と共同販促する。アコファイドは胃の筋肉を刺激するアセチルコリンの分解を防ぎ、胃の運動を活発にする。

機能性ディスペプシアは胃もたれなど症状はあるものの、内視鏡検査などでは異常が見つからない病気。これまで神経性胃炎などと診断されてきたが病理検査と症状が一致せず、新しく定義された。潜在患者数は人口の10−20%と多い。6月に長期処方解禁を控え、拡販が期待される。

富士薬品（さいたま市大宮区）と三和化学研究所（名古屋市東区）が13年9月に発売した痛風・高尿酸血症薬「トピロキソスタット」も注目だ。それぞれ「トピロリック」と「ウリアデック」の製品名で展開する。高尿酸血症は肥満や高血圧、脂質異常症、糖尿病、慢性腎臓病との関連が指摘されている。

帝人ファーマ（東京都千代田区）の「フェブリク」は長期処方解禁後、好調に伸長し、国内シェア50%まで広がった。今後の市場拡大は尿酸値を第4のメタボ指標とする第4のメタボ指標とするエビデンスを築けるかがカギとなる。

呼吸器

薬効成分と吸入デバイス

工夫凝らし開発

ぜんそくや慢性閉塞性肺疾患（COPD）など呼吸器疾患では3製品が発売された。呼吸器薬は薬効成分と吸入デバイスの両方が重要な市場だ。薬効成分では長時間作用性β2刺激薬（LABA）と、長時間作用性抗コリン薬（LAMA）、吸入用ステロイド（ICS）を組み合わせる。吸入デバイスはドライパウダーやミスト噴霧など各社工夫を凝らす。

グラクソ・スミスクライン（東京都渋谷区）のぜんそく治療薬「レルベア」はLABAのビランテロールとICSのフルチカゾンフランカルボン酸エステルの配合剤だ。フルチカゾンフランカルボン酸エステルはICSの中で最も強く受容体と結合するため、長く炎症を抑える。吸入デバイス「エリプタ」はフタを開けて薬を吸って、閉めるだけと操作が簡単だ。1日1回の服用ですみ、毎朝の吸入を習慣化すれば職場や学校で服薬する必要がない。エリプタは旅行などに持ち歩いても、カバンの中で薬剤が出ないようデザインされている。

杏林製薬（東京都千代田区）のぜんそく治療薬「フルティフォーム」はLABAのホルモテロールとICSのフルチカゾンプロピオン酸エステルを組み合わせた。ホルモテロールが数分で気管支を広げるため、フルチカゾンが肺の中で滞留し肺の奥まで到達しやすい。

吸入デバイスはミスト噴霧式を採用した。患者の吸い込む力によらず一定の粒径のミストが噴射されるため、中枢気道から肺胞まで薬の届く部位が安定する。患者の体調や吸い込む力に左右されにくいとされる。ぜんそく治療では症状が進むと炎症を抑えるためにICSの量を増量する。LABAを加えてICSを補助することで、ステロイドの増量を抑えられるとされる。

ノバルティスファーマのCOPD治療薬「ウルディブロ」はLABAとLAMAを組み合わせた。もともとLABAは「オンブレス」、LAMAは「シーブリ」としてそれぞれ単剤で販売され、治療実績は豊かだ。LABAとLAMAを配合すると、LABAが気管支の平滑筋を弛緩させ、LAMAが平滑筋の収縮を止める。2種類の効果で気管支を広げる。

ウルディブロの吸入デバイスにはドライパウダー式の「ブリーズヘラー」を採用した。吸入時に正しく吸い込めたか確認できるように、薬に甘みを付けたり、吸い込むとカラカラと音が鳴るよう工夫されている。

COPDは進行に応じて薬の組み合わせを変えるが、オンブレスとシーブリもブリーズヘラーで提供しており、患者は使い方を勉強し直す必要がない。

グラクソ・スミスクラインのレルベアの吸入デバイスは簡単操作でミスのないデザイン

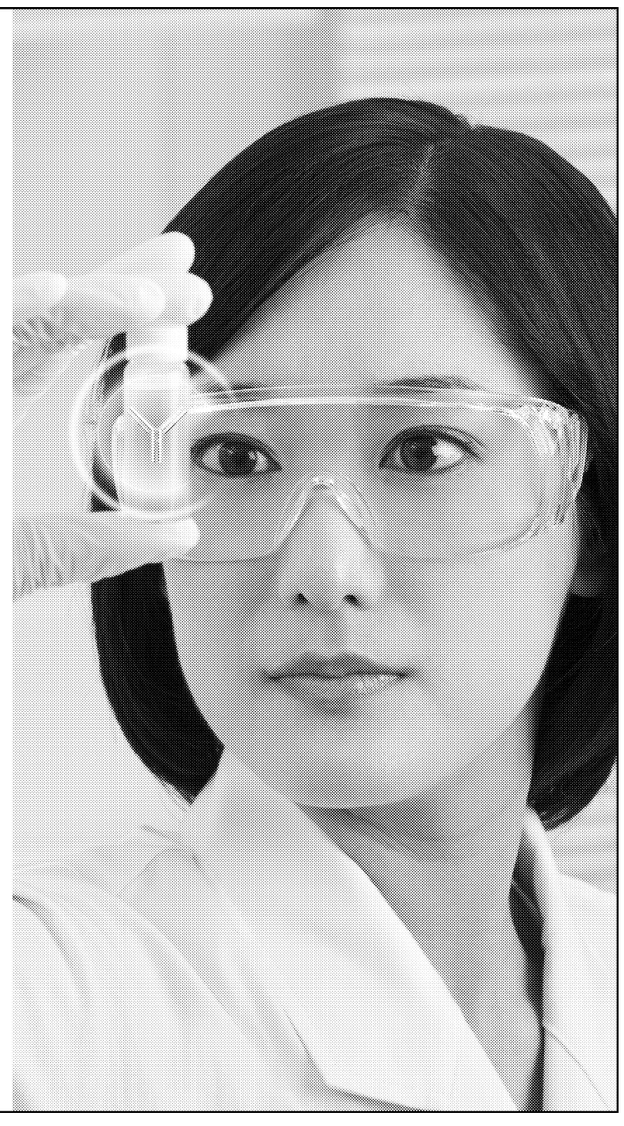
健康を支える医薬品

視線は、いのちへ。

病を治したい。いのちを救いたい。
私たち協和発酵キリンは、
抗体医薬のリーディング・カンパニーとして、
真摯に研鑽を積み重ねています。
一分でも一秒でも早く、
世界が待ち望む新薬をお届けするために。

グローバル・スペシャリティファーマ。
抗体医薬をリードする、協和発酵キリンです。

KYOWA KIRIN



協和発酵キリン株式会社
http://www.kyowa-kirin.co.jp

© Elie Bernager / Stone / Getty Image

サノフィは、グローバルに多角的事業を展開するヘルスケアリーダーとして
患者さんのニーズにフォーカスしています。

サノフィ株式会社
〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 東京オペラシティタワー　www.sanofi.co.jp

SANOFI